

韓国語学習者のための手書き型自習ソフトウェアの開発

金 義鎮*, 金 惠鎮**

Development of self-study software for Korean learners

Euijin KIM*, Hyejin KIM**

1. はじめに

外国語を習得するためには「書く」「読む」「話す」「聴く」という4つの重要な基礎能力が必要である。特に、「書く」というのは十分な反復練習が必要とされる⁽¹⁾。しかし、初心者の場合には教員の直接指導がないと間違っただけの文字や書き順に気づかないことがしばしば起こり、そのまま間違っただけを覚えることも多い。このような問題を解決するために、従来から様々な手書き学習ソフトウェアが提案されている。例えば、ペン型デバイスやPDAを利用してタブレット上や画面上に文字を書き、その文字を判断するものがある⁽¹⁾⁽²⁾。しかし、このようなソフトウェアは漢字などの日本語を学ぶ学習者に限られている。また、個人学習者は専用の外部装置を別途購入しなければならない、学習者個人の経済的な負担も大きい。

そこで本研究では、韓国語を学ぶ個人学習者を支援することを前提にした手書き型の自習ソフトウェアを提案する。このソフトウェアの開発にはJava言語を利用している。その背景として、Javaプログラムは多様なOSのパソコンに依存しない汎用性をもつからである。また、韓国語を入力する装置としては一般的なマウスを用いる。したがって、本文で提案するソフトウェアは別途の外部装置が不要で、家庭用のパソコンで利用できるという利便性をもつ。

2章では学習者が間違いやすい韓国語の書き方の例を挙げる。3章では学習者が書いた画面上の韓国語をパソコンが認識するための必要なデータ化とそのデータから韓国語を認識する過程を述べる。4章では学習者を支援する様々な学習機能について説明する。

2. 韓国語の書き方

近年、韓国語の人気が高まり、韓国語を学ぶ一般人や大学で外国語科目として韓国語を履修する学生が増している。しかし、学習者にとって見慣れない文字の形や書き方を習得までは相当な練習時間と教員の指導が不可欠である。特に、韓国語の中には類似した形の文字が多く、学習者の誤った書き方がよくみられる。以下では学習者が複雑で難しく感じる韓国語の書き方の中で、誤りが起きやすいケースについて述べる。

字素の類似

韓国語の字素（子音と母音を称する）には類似した形が多いため、学習者が混同して間違っただけのまま単語を覚えることがよくみられる。これは初心者にも多くみられる誤りである。例えば、子音のㄱとㅋの場合、ㅋはㄱを書いてから真ん中に線を書くべきだが、初心者は真ん中の線をよく忘れてしまいㄱのみを書く誤りが多い。似たような誤りとしては、ㄷとㅌ、ㄴとㄹ

* 東北学院大学工学部電気情報工学科 (Tohoku Gakuin University)

** 久留米大学外国語教育研究所 (Kurume University)

受付日: 2007年6月22日; 再受付日: 2007年12月8日; 採録日: 2008年1月29日